

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年六月度 入選句（投稿総数一八九二句・小中学投句数一三四五句）

特選

選者 遠藤 幹郎

風薫る母のピアノはどこまでも 大垣市

西本 多恵(小五)

「風薫る」という季語は、夏の南風が緑の草木を渡ってきて匂うようなすがすがしい風のことをいいます。お母さんのピアノの音色が、このすがすがしい南風に乗ってどこまでも響き渡っていつてほしいといった作者の願いがこもったような一句ができました。また、作者は、お母さんのピアノに誇りさえ持つているように思われます。

かきごおりみんなでくらべる舌の色 大垣市

かとう そ生(小二)

かきごおりというと、赤、黄、緑…と色とりどりの甘味のついたシロップをかけたものですね。この句はこれらのかかったかき氷の色をくらべっこしているのではなく、お友だちとかき氷を食べながら、お互いの舌の色をくらべっこしているのですね。どうぞしよう。なんともほほえましくユニークな作品ができました。

初夏の風屋台のにおいがのってくる 大垣市

森本 輝人(小六)

お祭りには、色んな屋台が並びますね。たい焼き、やきそば、みたらし、とうもろこし…。作者の一番好きな食べ物の匂いは、何の匂いでしょう。屋台のにおいが初夏の風にのって匂ってくるといったところが、とても新鮮な感じがします。

春の花の美しい季節が過ぎ、さわやかな初夏の季節をうたった「嗅覚」の効いた一句ができました。

秀逸

かしわもちかすかに香る葉の香り 美濃加茂市

山田 昇吾(中三)

葉から葉へてんと虫が旅にでる 美濃加茂市

熊崎 玲葉菜(中三)

白セーラー気持ち新たに衣も替え 美濃加茂市

荻谷 歩花(中二)

ほたるがね自分のおしりじまんする 大垣市

古橋 隆之介(小三)

新茶つみおいしいお茶にへん身だ 大垣市

矢橋 亮哉(小四)

しおひがりほつたらどんでてくるよ 大垣市

岩川 由奈(小四)

つばめのすわがやに家族がふえました 大垣市

林 あい菜(小四)

かたつむり葉っぱのうらでかくれんぼ 大垣市

上木 美実(小六)

ひまわりが太陽向かってぐんぐんと 大垣市

金森 彩夏(十才)

川の中アメンボたちのぎょうれつだ 大垣市

真田 すみれ(小六)

入選

朝練で汗かきながら走る日々	美濃加茂市	金子	由奈(中二)
風がふき風鈴の音が鳴り響く	美濃加茂市	杉山	詩織(中二)
芝桜庭一面に咲き乱れ	美濃加茂市	豊田	彩華(中二)
真っ青な空にお似合い雲の峰	美濃加茂市	野田	花中(二)
ノロノロと道を横断かたつむり	美濃加茂市	鳥澤	美友(中二)
燕はね今年も我が家に里帰り	美濃加茂市	細田	佑奈(中二)
たけのこがどんどんのびるぼくのように	美濃加茂市	高井	壮太(中二)
ばしようさんわかばのしたでほほえむよ	大垣市	松澤	凧(小三)
くいせ川ホタルのダンスきれいだな	大垣市	國枝	真央(小二)
トマトさんお日さまみたいに赤くなれ	大垣市	かわい	ゆうま(小二)

入選

ひまわりとわたしのせたけくらべっこ	大垣市	江崎	絢音(小二)
母の日に心をこめてありがとう	大垣市	仙石	花梨(小三)
しようぶの葉おゆに入れるとしようぶゆだ	大垣市	平井	隆吉郎(小三)
父の日にかたもみするよきもちいい	大垣市	かとう	たくま(小三)
しおひがりあさりいっぱいいたいりようだ	大垣市	岩田	実乃(小四)
かたつむりいつになつたらつのだすの	大垣市	江崎	智也(小四)
あじさいが雨できらきらかがやいて	大垣市	山形	萌恵香(小六)
なつがきてママがはりきるバーベキュウ	大垣市	中村	有里菜(小三)
水たまり逆さに映った虹の橋	美濃加茂市	松久	日和(中三)
ひまわりが太陽向かってさげんでる	美濃加茂市	犬飼	元輝(中三)

選者吟

青空へ泰山木の花ひらく

幹郎